



支える人を支えたい!
みんなでコロナを乗り越えるぞ
基金@町田
Machinori Fund

クラウドファンディング
目標金額
**100
万円**

クラウド
ファンディング
期間

2020.8.3(月) - 9.16(水)

まちの困りごとを最前線で支援している
市民活動をみんなの力で応援したい!

私たち町田市社会福祉協議会と
町田市地域活動サポートオフィスは、
新型コロナウイルスの感染が広がる状況において
困っている方を支えている市民活動を応援すべく、
“みんなでコロナを乗り越えるぞ基金@町田”を立ち上げ、
クラウドファンディングに挑戦します!

一人のヒーローではなく、想いのあるみんなの力が
この先の町田の未来をつくっていきます。
市民活動の灯が、この先も支援を必要とする方に
届けられるよう、皆さまのお力を貸しください。

実行委員会構成団体
 ●社会福祉法人 町田市社会福祉協議会 www.machida-shakyo.or.jp
 ●一般財団法人 町田市地域活動サポートオフィス www.machida-support.or.jp

問い合わせ先(事務局): 町田市地域活動サポートオフィス machidafund@gmail.com

今月のコンテンツ

「みんなでコロナを乗り越えるぞ基金@町田」発足!

私たち町田市地域活動サポートオフィスと町田市社会福祉協議会は、“みんなでコロナを乗り越えるぞ基金@町田”を立ち上げ、8月3日より目標金額100万円を掲げたクラウドファンディング(FAAVO町田)を実施しています。今回のサポートオフィス通信では、基金を立ち上げた背景や集まった支援金の使途についてお届けします。

“みんなでコロナを乗り越えるぞ基金@町田”実行委員会の想いと願い

新型コロナウイルスの感染拡大やそれに伴う自粛は、あらゆる職種・立場の人に影響を与えていて毎日のようにニュースが飛び交います。中でも社会的に弱い立場に置かれやすい方への影響が大きく、公的な制度や福祉サービスのセーフティーネットからこぼれ落ちていく方も増えつつある危機的な状況が続いている。そのような状況に、支援を届ける市民活動、そして現場での活動はできないけど、金銭的寄付や物品の寄贈など、自分ができることをしたい!と考える人が、町田市内でも増えています。一方、支援の手を差し出す市民活動は、わずかな予算とぎりぎりのスタッフ数で、なんとか事業をやりくりしているのが現実です。

そこで、日ごろ市民活動をサポートする組織である、私たち町田市地域活動サポートオフィスと町田市社会福祉協議会は、“みんなでコロナを乗り越えるぞ基金@町田”を実行委員会形式で立ち上げ、クラウドファンディングを実施することにしました。

助成金の公募詳細は8月中にお知らせします

“想いのあるみんなの力”がこの先の町田の未来をつくります。このクラウドファンディングを通じ、市民活動の灯が、この先も支援を必要とする方に届けられること、そして市民活動への興味関心の輪が広がることを願っています。基金の助成対象は公募とし、外部有識者等による選考で決定します。公募詳細は、8月下旬をめどにお知らせする予定です。

資金が必要と感じている市民活動に、みなさんからの支援が確実に届くよう、引き続き取り組んでまいります。

“みんなでコロナを乗り越えるぞ基金@町田”実行委員会一同





Case Study |

ここからは、“みんなでコロナを乗り越えるぞ基金@町田”設立の大きな契機でもある〈緊急アンケート〉で明らかになった町田市内NPO・市民活動団体の現状や、市民活動の取り組み事例をご紹介します。

〈緊急アンケート〉で明らかになった市内のNPO・市民活動団体の現状

2020年4月2日～10日に町田市地域活動サポートオフィスが実施した、〈新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急アンケート〉では、

新型コロナウイルス感染拡大に伴い

「活動に影響が出た」と答えた団体は89%。

活動資金については、「今後影響が出る可能性がある」43%、

「大きく減少した」25% という回答が寄せられており、

団体の逼迫した様子が浮き彫りになりました。

このままでは、“困りごと”を抱える人への支援の手までも途絶えてしまう。

支援の手を差し伸べている市民活動団体の灯を絶やすと、

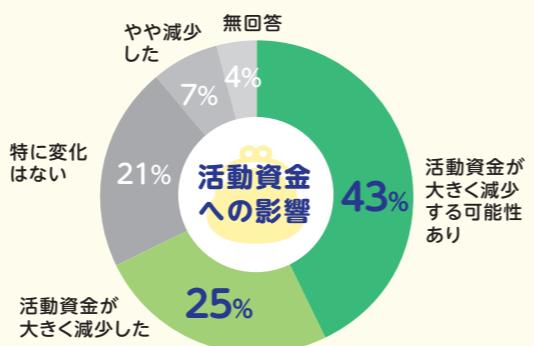
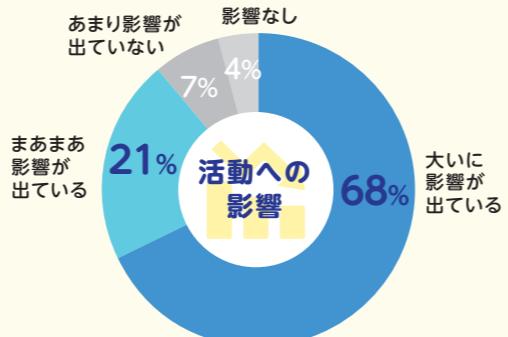
町田の未来も描けなくなってしまう。

私たちはそのような危機感を日々抱いています。

“みんなでコロナを乗り越えるぞ基金@町田”的活動を通じ、

応援の声と活動資金を届けることで、

逼迫する市民活動を後押しできればと願っています。



町田市内における市民活動の事例

「困ったあの人の力になりたい」という想いから始まっている市民活動は、

多様化する困りごとのニーズにしなやかに寄り添い、前に進む一步を共に踏み出してくれる存在です。

お話を伺うなかで、コロナの影響で活動の継続が脅かされている現状も見えてきました。

*ここで紹介しているのはあくまで事例です。基金の助成対象は公募の後、外部有識者等による選考で決定するため、ここで紹介する3つの事例が助成対象となるとは限りません。

CASE 1



つるかわ無料塾 結い

▶活動地域 町田市鶴川 ▶代表 福田 有美子 氏 ▶HP <https://ameblo.jp/tmj-2017/>

つるかわ無料塾 結いは、中学生向けの無料学習支援を行っている団体です。週に1回は手作りのおにぎりとみそ汁を提供し、「安心して居られる場所・自分に合った学び」を実践。

緊急事態宣言下でも「子どもたちの学びを止めてはいけない」という一心で、オンライン授業の準備を進めた結いのみなさん。端末購入の予算がなく知り合いに端末の寄付を求め、どうにかそろえることができたとのこと。また感染拡大防止のため、手作りで提供していた食事を市販のパンで代用したこと、今までの3倍の予算が必要になるなど、運営状況の厳しさは増す一方。しかし、自分たちが行っている学習・食事支援の使命を再確認し、しばらくはこの状態で頑張っていこうと意気込んでいらっしゃる様子がとても印象的でした。



CASE 2



ブラインドITサポート町田

▶活動地域 町田市および近隣 ▶代表 田中 雅江 氏 ▶HP <http://bismachida.jp>

ブラインドITサポート町田は、視覚障がいのある方の情報収集や発信、ネットワーク拡充をめざし発足した団体です。現在は、iPhoneの基本操作を習得や、会員相互の親睦を深めることを目的とした講座を開催しています。

外出自粛が始まった時、スマートフォンを操作できたことで「周りの状況をなんとか把握する情報を検索できた」「LINEやZoom、Skypeなどを使って、仲間や離れて住む家族と連絡を取り合う機会を作れ、孤立しないで済んだ」という声が多く寄せられたそうです。

これからも活用講座を安全に配慮し継続させるには、マスクや手指消毒だけにとどまらず、今までの倍の広さの会場の予約や全員分のフェイスシールドの用意が必須です。団体としての負担が増えていくことが課題になっているとのことでした。



CASE 3



ごはんで元気!プロジェクト

▶活動地域 町田市中町 ▶代表 清原 理 氏 ▶HP <https://www.facebook.com/sohokeicafe/>

コロナの影響で困っている人に、季節の味がたくさん詰まったお弁当を無料配布した「ごはんで元気!プロジェクト」は、“福祉の制度ではカバーできない困りごとを抱えている人”を中心に、市民からの寄付や寄贈された食材とボランティアの力で390食のお弁当をゴールデンウィーク中に配布。日本全国が自粛で休業やサービス停止となっている状況下、心のこもったお弁当により、多くの方の心と体を優しく満たしたプロジェクトとなりました。

多くのニーズや手応えを感じる取り組みとなった「ごはんで元気!プロジェクト」。方々から継続してほしいという声が届いているそうですが、食材以外にもお弁当容器や衛生用品の購入にも資金が必要とのこと。今後の継続的な支援をするための活動資金の調達に苦慮されていました。



まとめ

「相手を笑顔にすること」を考え、支援を届けようとしている市民活動、そして現場での活動はできないけど、寄付や寄贈などで地域のために自分ができることをしたい!と考える人が町田市内で増えていることは、町田の未来にとって大きな希望であると感じています。この動きを継続できるよう、“みんなでコロナを乗り越えるぞ基金@町田”へのご理解とあたたかいご支援をよろしくお願ひいたします！

支援の詳細と紹介した3団体の事例は、
こちらからご覧ください。

<https://camp-fire.jp/projects/view/305818>

